

表紙によせて

## 恵泉女学園大学ハーブ園のノイバラ

絵：角田葉子（2004年5月14日）

ノイバラ *Rosa multiflora* Thunb.は、北海道から九州までの山野でごく普通に見られる落葉性の低木で、5月ごろに径2 cm前後の小花を群がって開く。この日本産の野生バラは18世紀頃からにヨーロッパに渡って園芸バラの品種改良に用いられ、枝の先に花が群がって咲く多花性のポリアンサ・ローズやフロリバンダ・ローズなどに姿をかえ、華やかな衣裳で里帰りしている。ノイバラは寒さに強いいため、園芸バラに耐寒性をつけるという意味でも重要な役割をはたしており、さらに強健であるため、接ぎ木で苗を殖やすときの台木としても利用される。

表紙絵をお願いした角田葉子さんは、日本を代表するボタニカルアーティストの一人で、とくに野生植物を得意とし、英国王立園芸協会のボタニカル・アート展などにおいてもしばしば入賞、英国で最も伝統的な植物学雑誌であるカーチスのボタニカル・マガジンの挿し絵も担当している。 (箱田)